

地域・農業・子どもをつなぐ「にんじんつめ放題まつり」

のうじくみあいほうじん たかほりしゅうらくえいのうくみあい

農事組合法人 高堀集落営農組合

※2025年現在



盛況の「にんじんつめ放題まつり」（令和6年11月）

■組織情報

所在地	南砺市高堀地区
設立年次	2004年1月
代表者	代表理事 大川 繁樹
構成員	42人
社員等	理事5人、監事2人、事務局1人、従業員1人

組織の概要

当該組織が所在する高堀集落は、南砺市北部の福野地区に位置し、一級河川・庄川から西に位置する散居集落で、標高70mに水田が広がる平地農業地域である。

高堀集落では、将来的な担い手不足や生産資材・農業機械の価格上昇が農業経営に影響を及ぼすことを懸念し、平成10年に集落営農組織化への合意形成を行った。平成16年の法人設立時には42戸が出資し、法人経営を行っている。

生産状況

●経営耕地面積	29ha
●水稻	17ha
●大麦	9ha
●そば	6ha
●たまねぎ、にんじん	6ha

主な設備

●トラクター	4台
●コンバイン	2台
●田植機	1台

特徴的な取組及び成果

- 行政機関の指導と初代表理事の強い働きかけにより、個人営農から地域全体で営農する「集落営農組織」を設立し、農業機械の共同利用や担い手不足の解消に取り組んできた。また、水稻中心の栽培体系から、たまねぎ・にんじんを導入した**複合経営への転換**を進めてきた。
- にんじん生産は労力負担が大きく、品質が基準に達しないと販売できないうえ、規格外品の処理にも費用がかかるなど**収益性に課題**があった。そこで従来の自家収穫による販売を見直し、消費者が収穫体験と購入を同時に楽しめる「**にんじんつめ放題まつり**」を毎年3月と11月に開催し、**16年間継続**している。
- 昨年11月の開催（2日間）では、チラシやSNSの活用により**約3,700名が来場**する盛況となった。さらに、県の中山間地域パートナーシップ推進事業を通じて地元企業との協力体制が構築され、まつりの運営支援を得るなど、**地域連携の強化にも寄与**している。
- 加えて、広告代理店の提案を契機に、残ったにんじんを活用した**保育園児向け収穫体験**を開始した。初年度は1園であったが好評を受け、市内全保育園の年長児をまつりのプレオープンとして招く形に拡大し、**大規模な食育イベント**として定着した。子どもたちが畑に触れ収穫を楽しむことで、食育と地域農業への理解促進に貢献している。

今後の目標

- 複合経営を継続するうえで、野菜用機械の老朽化に加え、稲作に比べて多くの人手を要することが大きな負担となり、長年取り組んできた野菜の生産・収穫・販売でも十分な収益を確保するには至っていない。そこで今後は、保育園児向けの収穫体験を残しつつ、**次世代に過度な負担を残さない経営の継承**を目的に、米を中心とした経営へ転換し、生産性の最大化を図る方針である。これに伴い、野菜生産から**加工用米・備蓄用米などへの転換**を進める予定である。
- 一部で導入した**V溝乾田直播**は作業効率が向上と安定した収量が確認され、省力化・生産性向上に効果が見込まれることから、今後は本手法を**全面的に導入**する計画である。
- 令和6年度からは「**働いた者が報われる賃金体系**」の実現を目指し、役員報酬や時間当たり賃金の見直しを進めるとともに、労働時間の短縮にも取り組み、**集落営農の持続性確保**を図っていく方針である。